

令和6年度モニタリングシート

【施設名等】

施設名	大洲市肱川高齢者生活福祉センター	位 置	大洲市肱川町宇和川65-1
指定管理者名	医療法人 恕風会	所管課	高齢福祉課 Tel0893-24-1714

【施設の概要】

設置年月日	平成5年5月1日	構 造	本 館 鉄筋コンクリート平屋建 別 館 木造平屋建
設置目的	高齢者に対して、介護支援機能、居住機能及び交流機能を総合的に提供することにより、高齢者が安心して健康で明るい生活を送れるように支援し、もって高齢者の福祉の増進を図る。		
施設機能	本館：デイサービス事業(ホール兼食堂、機能訓練室、一般浴室、特殊浴室等) 支援ハウス事業(単身用4室、夫婦用3室) 別館：障害者の日常生活訓練等事業		
利用料金等	・デイサービス事業：介護報酬の1割、2割又は3割及び実費 ・支援ハウス事業：条例第10条の利用料金、光熱水費、共用雑費 ・障害者の日常生活の訓練等事業：交通費、材料費		
開館・閉館	デイサービス事業、障害者の日常生活訓練等事業の休館日 … 12月30日から1月3日 生活支援ハウス … 年中無休		
指定管理 業務内容	・大洲市老人デイサービスセンター肱流苑 ・生活支援ハウス ・障害者の日常生活の訓練等事業		
施設管理体制	・デイサービスセンター：管理者1名、生活相談員3名、看護職員4名(機能訓練指導員4名と兼務、非常勤3名)、介護職員11名(生活相談員2名、調理員1名と兼務、非常勤2名)、機能訓練指導員4名、調理員3名(非常勤)、環境整備員3名(非常勤) ・支援ハウス：管理者1名、生活援助員3名(うち1名デイサービスセンター職員が兼務) ・障害者の日常生活訓練等：管理者1名、生活支援員2名(休止中)		

【施設利用者数】

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
令和6年度	823	892	868	861	789	813	870
令和5年度	818	879	851	873	925	936	870
比較	5	13	17	△ 12	△ 136	△ 123	0
	11月	12月	1月	2月	3月	計	
令和6年度	830	777	679	642	775	9,619	
令和5年度	864	689	728	827	879	10,139	
比較	△ 34	88	△ 49	△ 185	△ 104	△ 520	

【指定管理者としての収入・支出(決算)】

(単位:円)

収入内訳	収入金額	支出内訳	支出金額
指定管理料	3,010,000	材料費	2,894,788
通所介護事業	60,624,522	通所介護事業費	63,564,922
介護予防・日常生活支援事業	19,489,110	介護予防・日常生活支援事業費	32,730,368
生活支援ハウス事業	2,318,351	生活支援ハウス事業費	5,197,593
精神デイサービス事業	0	精神デイサービス事業費	220,883
国庫補助金収入	177,547		
雑収入	595,580		
受取利息	5,062		
合 計	86,220,172	合 計	104,608,554

*指定管理料は生活支援ハウス事業収入に算定されます。

【サービス向上に向けた取り組み】

令和6年度	感染症対策については5類後に数回の感染が発生しているが活動時に感染予防は継続して行っている。令和6年度は感染対策を行いながらも地域交流や活動性の向上に努めていきご利用者様が安心して楽しめる活動をおこなっている。 令和4年より事業のICT化を進めてきているが職員一人一人が理解できていない部分があり全員が理解行動し業務改善を行うことにより、利用者個々に寄り添える時間を作り、その希望を叶えることができる支援を行う。 職場環境の改善として職場環境の整備、業務の明確化と役割分担、手順書の作成、記録報告様式の工夫、情報の共有化、OJTの仕組み作り、事業の理念、行動指針の徹底を行っていき人材育成につなげていきたい。
令和5年度	新型コロナウイルス感染症の5類に移行に伴い、テーブルに設置していたパーテーションを無くしたことで利用者同士のコミュニケーションが取りやすくなった。またコロナ禍で中止していたボランティア団体や市内の高校や小学校の受け入れを再開しており訪問時には利用者の笑顔があふれていた。地域に根ざした施設として今後も交流の場を拡げていきたい。 コロナ禍により利用者の外出や運動の機会が減少していることを鑑みて、通常の運動機能向上訓練や筋力向上訓練に加え、散歩やドライブなどの個別機能訓練の内容を充実させ、より楽しみながら活動性の賦活を図ることができた。 大型災害や感染症発生時における対策としてBCP(業務継続計画)を整備し、備蓄品の再点検を実施した。今後の大災害等に備え予防衣、手袋、マスク等の感染用備蓄品については十分な数量の確保に務めることができた。

【利用者から要望と対応状況】

利用者からの苦情・要望等	利用者からの苦情・要望への対応
特になし	特になし

【指定管理者の自己検証】

令和6年度の利用者総数は9,619人で、対前年度比が94.9%、520人の減となりました。また決算については収入が86,220,172円(対前年比97.0%)、支出が104,608,554円(対前年度比106.8%)となりました。結果、収支については△18,388,382円と昨年に引き続き大幅な赤字となっています。利用者数が大きく減少したことが収入減の要因となっています。支出については、人員確保に伴う給料等の上昇分による人件費の増加が主な要因と思われます。また、物価高騰も合わせて支出増により経営困難となっております。今後は利用者の確保と合わせ、効率的な人員の配置及び支出軽減について検討し、対策していくことが急務と考えています。 今後の運営について支出の増加が大きく特に人件費及び物価高によるものが大きくこの1年で赤字が倍に膨らんでおり今後の経営について判断が必要な状況にあります。今後も人員整理及び業務改善を含め経営可能な方向性を見つけていく必要があります。ただ介護収入増も見込めずこのまま負担増が続く場合は指定管理の継続は困難であると判断いたします。
--

【施設所管課の検証・評価】

事業実施については、指定管理に関する基本協定書及び仕様書の内容を満たしている。職場環境の向上に尽力し、働いている職員の人材育成に努めていた。 また、感染症対策を講じ、職員と利用者双方の健康維持に努めていた。 令和6年度年間利用者数が9,619人と、令和5年度より520人減少しており、需要の目減りが懸念される。引き続き、更なるサービスの向上を図っていただきたい。
--